

収入の部

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
繰越金	43,492	43,492	0	
常費収入	1962,000	1971,000	9,000	別表の勘
雑収入	50,000	48,600	-1,400	さいばい
計	2055,492	2063,092	7,600	

支出の部

項目	予算額	決算額	比較増減	摘要
公課金	385,000	386,820	-1,820	宗務・区費・住職共済・仏教連合会費
法要費	450,000	478,000	-28,000	
両彼岸	100,000	100,000	0	別表の勘・法札
報恩講	220,000	231,000	11,000	マイク音上・法札・菓子料・おみけ・花巻・香
永代経	130,000	147,000	-17,000	マイク音上・法札・菓子料・おみけ・香
経常費	200,000	209,612	-9,612	
火災保険	24,180	24,180	0	
会議費	65,000	62,500	2,500	総代会・住職共済1回
香華灯明費	40,000	40,300	-300	ろうそく・花巻
光熱費	70,820	82,632	-11,812	電気代・ガス代・水道・アロマ
営繕費	300,000	194,250	105,750	建物の修繕・トイレ・水道・給湯機
交際費	20,000	20,000	0	
教養費	52,000	52,100	-100	新聞代・本山各報出版費
教化費	505,000	522,380	-17,380	
伝導費	380,000	406,580	-26,580	「真宗」代・カレンダー・寺報・「みのりを聞く会」・送付・テレビ放送
助成費	100,000	100,000	0	仏教・仏教へ助成
記念品費	25,000	15,800	9,200	成人式・入学式・仏教新人会・初詣式
事務通信費	75,000	75,830	-830	郵便・郵便・印刷・電話基本料・自費・ワープロ・タイプライター
予備費	68,492	52,000	16,492	本堂修繕費
計	2055,492	1990,992	64,500	

実収入額2063,092-実支出額1990,992=明年へ繰越72,100

勝林寺寺報

臨時号

昭和六十二年年度の
経過並びに「反少自

昭和六十三年は、終に「昭和最後の年」となってしまいました。天皇ご逝去

のこを含めてだれしも感慨無量のことかと思ひます。さて、勝林寺のこの一年は、輝かしい一年であったといつても誤りではないとおもひます。第一「初参式」が急増致しました。それから「仏前結婚式」もありました。ともすると今まで、寺院というものが葬儀・法事など、いわば暗い悲しい行事の専用会場であるような印象をもつて見られていました。

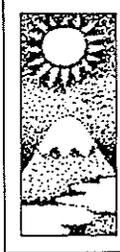
それがそうではなくて、いのちの誕生や人生の出発を慶び祝い合う行事が、特にこの一年、どんどん行われ始めたといふことは、なんとしても画期的なことである。しかしこれは、突然なんの原因もなく表れた現象ではありません。二十数年にも及ぶ「子供研修会」の積み上げもありました。春季研修会・研修旅行・別修報恩講・その他年々沢山の行事を計画し運営し続けてくださった仏教の婦人の方々の努力の結晶です。こうしたたかめぬ動きのなかで、このころほど人の出入りの多い寺は、少なく

代議員会のご案内

平成元年度 代議員会を 下記により開催致します。
代議員各位のご出席をお願い致します。

記

2月12日(日) 午前9時半



ともこの地方にはないと言われています。63年度には、そのような「活発な教化の寺」に学びたいと、遠い滋賀県から門徒総代さんの団体や婦人会・仏教の団体が見学に来られたのには、住職いささか恐縮したほどです。

「勝林寺寺報」は、おかげで一度の運配もなく毎月出しています。この配布については年中数森昭氏・関森松一氏にお世話になりました。寺の境内の清掃もお世話になりました。心から感謝いたします。「寺報」の記事もその都度仏教・仏教から提供していただきました。門徒全部で作る「寺報」にだんだんなってきたように思います。有り難い事です。「勝林寺テレホン法話」も、必ず待ち構えて聞いてくださる方々に励まされて続けられてきました。少しずつですが聞いてくださるかたが増えていくように思います。「テレホン法話I・II」の二冊を門徒全戸に配本しました。

その他、毎月の「みのりを聞く会」をはじめ、ダーナの寝たきり老人訪問、観桜研修会、永代経の作品展、敬老報恩講、除夜会等々、定期的な法要と合わせ、実に活発に動いていただいた一年であったと思ひます。お念仏のおみのりは、こうした動きのなかで戴けるのだろうと思ひます。

住職は、こうしたご門徒の支えを戴いて幸せにはたがせていただきました。ご本山で、中央連研講師、基幹運動本部企画専門委員、兵庫教区では基幹運動推進常任委員、企画室員、同朋講座講師、出石組の副組長、を勤めさせていただきました。



1989(平成元)年度
宗教法人『勝林寺』

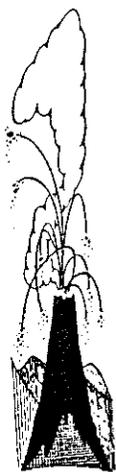
歳計予算書

収入の部

項目	予算額	前年度予算額	比較増減
繰越金	72.100	43.492	28.608
常費収入	1969.000	1962.000	7.000
雑収入	45.000	50.000	-5.000
計	2086.100	2055.492	30.608

支出の部

項目	予算額	前年度予算額	比較増減
公課金	400.000	385.000	15.000
法要費	460.000	450.000	10.000
両彼岸	100.000	100.000	0
報恩講	230.000	220.000	10.000
永代経	130.000	130.000	0
経常費	204.180	200.000	4.180
火災保険	24.180	24.180	0
会議費	65.000	65.000	0
香華灯明費	40.000	40.000	0
光熱費	75.000	70.820	4.180
営繕費	300.000	300.000	0
交際費	20.000	20.000	0
教養費	52.000	52.000	0
教化費	535.000	505.000	30.000
伝導費	410.000	380.000	30.000
助成費	100.000	100.000	0
記念品費	25.000	25.000	0
事務通信費	76.000	75.000	1.000
予備費	38.920	68.492	29.572
計	2086.100	2055.492	30.608



昭和六十三年
会計決算の報告

門徒戸数211戸。戸数等級割りの収入19710005円をふくむ収入総額は2063092円でした。支出の殆どの項目で若干の超過支出がありました。書院トイレの改装は基本金会計で支弁されましたので管轄費は105750円の残となり、従って総計では64500円を明年度へ繰り越すこととなりました。

平成元年への
ねがい

この新しい年への願いが三つあります

御同朋の社会を

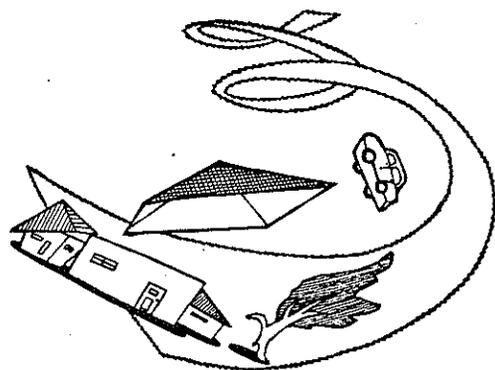
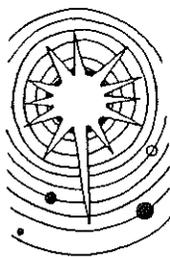
浄土真宗の開山親鸞聖人は、如来さまに呼ばれている者には、差別はあつてはならない、みな平等なきようだい(同朋)なのだとおっしゃいました。そういう意味からこの寺も「同朋の寺」でなければなりません。特に、社会の高齢化がすすむ中で、寝たきり老人、独居老人がご門徒のなかにも年々増えていきます。そのような老人は実は私達の親でありおみのりの先輩です。私達は従来から「敬老報恩講」などへお招きしたりする営みは致して参りました。

戦没者追悼法要

今年、もっと日常的にこの老人を支えることができないものだろうか。住職は、いまビハラとよばれる研修のなかで病人や老人の介護の仕方を少し学ばせていただいています。仏婦・仏士の運動・行事のなかで、これからは時代を要請もお願いも、これからの社会の重要課題でもあるはずだ。

昭和は終わりました。

昭和は終わりました。めいめいに感慨があるうと思えます。あの「戦争」というものの評価は、人めいめいに感慨があるうと思えます。あの「戦争」というものの評価は、人様々でしょうけれども、しかしだれしも忘れられないこと、忘れてはならないこと。



とは、戦いの中で、またその周辺で、尊い命を失った「戦没者」のことです。元号が変わった、時代が変わった、という事で、忘れられ消し去られてしまつては大変です。時代が変わったこの年から、改めて戦没者の法要をみんなで営み、戦争のこと人の命のことをお互い考えあわなければならぬとおもいます。8月の7、8日ごろに勤め体とおもいます。

共に命を
喜びあおう

昨年「初参式」が多くありました。「仏前結婚式」も挙げられました。寺は本来、人と生まれた命の尊さを仰ぎ喜び合う場であるはずで、勝林寺は今、そうした本来の方向に動き出したことは、ほんとに嬉しい事です。

しかし、これは、ご門徒みんなの理解と協力がなければなりません。一段の支援をおねがいします。

とともに今一つ、若い婦人の参加を今年積極的に働きかけたいと思えます。

新年度の予算について

今年度は、とくに予算を伴うような新規の行事の計画はありません。従って予算案も前の年度の予算を参照し、ほそそれを踏襲いたしました。上に掲げたものをご相談下さい。

新年度行事計画

「寺報一月号」を参照ください。